

「データ駆動・AI時代の通信ネットワークQoEの定量化」

- AI活用による高精度QoE予測と動的ネットワーク制御
- 実装事例に基づくビジネス応用と産業連携
- 國際標準化と持続的イノベーションの推進

講師

(座長 —— 総合司会) 東京大学 名誉教授

齊藤忠夫氏

講師

NTT株式会社 ネットワークサービスシステム研究所 主幹研究員

山岸和久氏

講師

名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授

布目敏郎氏

講師

一般社団法人 WebDINO Japan CTO

浅井智也氏

(講演順)

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190㈹ FAX 03(6416)5351

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を發揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のために貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、今まで気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになっている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不充分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム

— P A R T 996 —

」開催内容

(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「データ駆動・AI時代の通信ネットワークQoEの定量化」

日 時 2026年 1月 23日 (金) 13時00分～16時50分

時間	講演内容	講師
----	------	----

(本フォーラムの趣旨・論点)

- 多様化サービス時代のQoEの定量化
- AI活用による高精度QoE予測と動的ネットワーク制御
- 実装事例に基づくビジネス応用と産業連携
- 国際標準化と持続的イノベーションの推進

近年、通信ネットワークは5G、IoT、モビリティ、XRなど様々な新技術・新サービスの出現とともに急速に進化しています。これら新たな通信環境では、従来重視されてきたネットワーク性能 (QoS: Quality of Service) 以上に、利用者が実際に感じる「体感品質」 (QoE: Quality of Experience) が通信サービスの成功を左右する重要な評価軸となっています。従来のパケット遅延やスループットなどの客観的指標を超え、QoEはユーザ視点に基づく通信品質の総合評価であり、その定量化や予測は運用改善やサービス差別化、ひいてはビジネス価値創出に直結しています。

最新のQoE定量化技術はAIや機械学習の活用によって飛躍的に進化しています。モビリティやドローンなど移動体の映像と通信状況を複合的に解析する技術が開発され、高精度のQoE予測や最適ネットワーク選択を可能にしています。特に映像認識AIと大規模言語モデル (LLM) を組み合わせ、走行環境・天候・運転特性などの文脈情報を総合理解し、移動環境におけるQoEの変動をリアルに反映した予測技術は、通信の安定化とユーザ体験の向上を強力に支援しています。

また、通信ネットワークの複雑化に対応して、多様な通信経路を持つマルチパスネットワーク上でのQoE管理技術が注目されています。これにより、アプリケーション特性やリアルタイムの通信状況に応じたネットワーク制御が実現し、通信品質の大幅改善が図られています。さらに商用サービスへの応用例も増加し、映像配信サービスや自動走行支援サービスで実証が進んでいます。

加えて、ITU-T SG12を中心とした国際的な標準化活動も活発であり、QoEの科学的定義や評価指標の国際標準確立により、業界全体が品質保証の新たな枠組みを共有しつつあります。この国際標準化は、将来的なネットワーク設計やサービス開発を指針付け、産学官の連携による持続的な技術革新を促進しています。

本フォーラムでは、こうした技術・研究動向から実装・実用化事例、国際標準化の現状と将来展望まで、多角的にかつ体系的に取り上げます。5GやIoT時代の多様化したユースケースの中でQoEの定量化・予測技術が果たす役割、AI技術による動的制御の実現性、社会実装上の課題と解決策、産業における価値創出を議論します。参加者には、最新の技術知見と実践的ノウハウを通じて、自社のサービス品質向上や新事業創造に役立つ多くの気付きを提供することを目指しています。

(座長-総合司会)

東京大学 名誉教授 齊藤 忠夫

13:00 ～ 13:20	(基調講演) 「通信品質のこれまでと変遷」	質 疑 応 答	齊藤忠夫氏 東京大学 名誉教授
13:20 ～ 14:25	「QoE評価と国際標準化の最前線」 <ul style="list-style-type: none"> ● QoS、QoEとは ● QoEの定量化、評価 ● ITU-T SG12の標準化動向 ● 今後の標準化と技術課題 	質 疑 応 答	山岸和久氏 NTT株式会社 ネットワークサービスシステム研究所 主幹研究員
(休憩) (14:25 ～14:35)			
14:35 ～ 15:40	「ビデオストリーミングとネットワーク制御におけるQoE定量化」 <ul style="list-style-type: none"> ● 映像配信サービスにおけるQoE評価の特性 ● ネットワーク制御とQoE向上 ● QoE推定手法と実証事例 ● 大規模展開と課題解決 	質 疑 応 答	布目敏郎氏 名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授
(休憩) (15:40 ～15:45)			
15:45 ～ 16:50	「QoE定量化がもたらすサービスとネットワーク間の品質協調」 <ul style="list-style-type: none"> ● QoE定量化の仕組みと実装：Web VideoMarkの事例紹介 ● 動画サービスの視聴情報収集とリアルタイム品質推定 ● ネットワーク事業者への品質データと分析の提供 ● 相互協力によるネットワーク資源最適化と利用者体感向上にむけて 	質 疑 応 答	浅井智也氏 一般社団法人 WebDINO Japan CTO

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

稻葉 陽子 (株)NTTデータグループ

委員長
齊藤 忠夫 東京大学
(運営諮問委員会幹事)

代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学
副代表幹事
服部 武 上智大学
森川 博之 東京大学
成宮 勝一 一般社団法人
科学技術と経済の会
幹事
尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU)
川野 真穂 総務省
間宮 淑夫 内閣官房
渡邊 昇治 経済産業省
西尾 崇 国立研究開発法人 土木研究所
立川 敬二 (株)ハイテクノロジー推進研究所
伊藤 寿浩 日本放送協会
川添 雄彦 NTT株
池田 敬 NTT東日本株
桂 一詞 NTT西日本株
海老原 孝 NTT株
佐藤 隆明 (株)NTTドコモ
伊東 匡 NTTアドバンステクノロジ株

名誉教授
名譽教授
理学部 客員教授
大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授
専務理事
電気通信標準化局長
国際戦略局 技術政策課長
内閣審議官
商務情報政策局 総務課長
戦略的イノベーション研究推進事務局 次長
取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)
技術局長
チーフエグゼクティブフェロー
代表取締役副社長
代表取締役副社長
常務執行役員 技術企画部門長
代表取締役副社長 CTO、CAIO、CPO
代表取締役社長

中村 元 KDDI株
宮川 潤一 ソフトバンク株
石原 直 東京大学大学院
浅見 徹 株式会社電気通信基礎技術研究所
遠藤 信博 日本電気株
新野 隆 日本電気株
木内 道男 日本電気株
高木 康志 富士通(株) SVP システムプラットフォームBG エグゼディレクター
石田 貴一 (株)日立製作所 事業部長
伊藤 明男 (株)日立国際電気 副社長執行役員
加茂下哲夫 (株)アリューションズ&ネットワークス 代表執行役員社長
(主な設立発起人)
齊藤 忠夫 東京大学
吉川 弘之 東京大学
立川 敬二 (株)ハイテクノロジー推進研究所
杉本 榮一 自由民主党
(最高顧問)
甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

名譽教授
元 総長
取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)
元 政務調査会 調査役

マルチメディア推進フォーラム – PART996 – 開催

●日時 2026年 1月 23日 (金) 13時00分～16時50分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。

オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。

(一部、一般受講も受付ておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 ¥52,300.- (消費税を含む)

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190
〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932(普)
三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194(普)
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、1月16日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡お願い申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は代理の方の出席か当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させて頂きます。
尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させて頂きますが、今後弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

きりとり線

「マルチメディア推進フォーラム – PART996 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名				TEL () _____	—
会社住所				FAX () _____	—
NO	受講者・所属・役職			受講者氏名(ふりがな)	
支払方法	銀行振込	(年	月) 銀行	通信欄
					請求書一要・不要